

科目名		サブタイトル	担当教員	配置学年	単位数
航空論		航空・空港政策の背景と内容を理解する	中村 知誠	2年次前期	2
科目区分	専門	キーワード	航空・空港政策を理解する		
ディプロマポリシーとの対応		2. 交通産業および関連分野での基礎能力（技術・理論）を有し、関連分野で活躍可能な能力			
カリキュラムポリシーとの対応		1. 一般教養および専門的（交通・観光関係）な知識と実践力とを総合的に身につける 2. 交通産業および関連分野で活躍するための基礎能力（技術・理論）を身につける			
事前に受講するとよい科目		「交通概論」「鉄道基礎」「鉄道工学」「鉄道数学」「交通英語入門」			
講義の目的	グローバル化が進展した今日、航空は旅客・貨物輸送に欠かせない存在といえるでしょう。本講義の目的は、①航空や空港の役割や機能を理解すること、②航空・空港政策が変化してきた背景と経済的な意味を考察できるようになることです。経済学や経営学などの知識があるとより理解が深まります。なお、航空物流については、物的流通論の講義で詳しく紹介します。				
到達目標	本講義では、①航空や空港にかかわる基礎的知識を習得すること、②習得した知識をもとに航空・空港政策について説明できるようにすること、③航空・空港分野での環境対策などといったより大きい課題を分析・考察できるようにすることを目標とします。				
講義内容	本講義では、経済学や経営学、会計学の基礎的な理論を使用し、航空・空港政策について体系的に学習します。第1講から第10講では航空政策を、第11講から第15講では空港政策を学びます。航空政策の講義では主に、日米の航空規制緩和や国際航空の制度的な枠組み、航空会社の費用特性などに焦点を当てて紹介します。空港政策の講義では、空港の収入・費用構造や複数空港地域での空港の機能分担、地方空港の現状などを紹介します。				
講義スケジュール		タイトル	内容		
	第1講	イントロダクション	航空輸送産業の特質と動向		
	第2講	米国の航空規制緩和政策	米国の航空規制緩和政策の歴史的・理論的背景		
	第3講	日本の航空規制緩和政策	わが国の航空規制緩和政策の歴史的・理論的背景		
	第4講	国際航空の制度的枠組み	国際航空の制度的枠組み：シカゴ会議と多国間協定		
	第5講	国際航空での規制と競争	2国間協定とシカゴ・バミューダ体制		
	第6講	国際航空での規制緩和	オープンスカイ政策やEUの航空政策の仕組み		
	第7講	航空サービスの費用	航空サービスに関わる費用とその経済的特性		
	第8講	航空需要と観光	航空需要の経済的分析：航空需要に与える運賃や所得の影響		
	第9講	LCCのビジネスモデル	LCCの経営戦略とサービスの特性を学ぶ		
	第10講	航空企業のマーケティング	コードシェアやアライアンスの仕組みと導入の背景		
	第11講	日本の空港制度と空港政策	空港整備の制度・空港運営の沿革と現状		
	第12講	空港経営	空港の収入・費用構造と空港の所有・運営形態		
	第13講	複数空港地域と空港経営	複数空港地域（MAR）における空港の機能分担		
	第14講	地方空港の経営改革	わが国の地方空港の現状と経営改革に向けた動き		
第15講	まとめ	第1講から第14講で学習した事項の整理・復習			
指導方法	毎回、授業中にプリントを配布します。授業はプリントとパワーポイントを併用した講義形式で進めます。講義内で適宜、小テストもしくは小レポートを実施します。				
事前学習	参考書の該当ページに目を通し、未習の用語の意味を確認すること。また、航空関連の用語に慣れるため、新聞やビジネス誌の航空に関する記事を読むこと。1時間程度の学習時間が目安である。				
事後学習	授業中に配布したプリントや授業中に紹介する参考文献をもとに、授業時に学習した事例やその他の事例について復習・学習すること。1時間30分程度の学習時間が目安である。				
成績評価方法	本試験（筆記試験）70%、平常点（小テストおよび小レポート）30%				
テキスト	高橋望・横見宗樹『エアライン/エアポートビジネス入門(第二版)』法律文化社、2020年。				
参考書籍	関西空港調査会監修『航空・空港政策の展望-アフターコロナを見据えて-』中央経済社、2021年。村上英樹・加藤一誠・高橋望・榊原胖夫(編著)『航空の経済学』ミネルヴァ書房、2006年。				
特記事項					